日刊 動労千葉

86. 10. 18

No. 2383

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一―八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉砕！

中曽根・杉浦は国鉄労働者の"実力決起"を恐れている

"61・11ダイ改"に実力反撃に起て

動労千葉は20日以降・順法闘争に決起

すべての国鉄労働者のみなさん！

国労臨時大会の勝利は情勢を一変させた。国労組合員は全国で決起を開始した。中曽根・杉浦の手先となり「国労解体」を叫ぶ動労革マル・真国労を解体し、国鉄法案粉砕の闘いと結合させ、全国の職場で実力決起をつくりだそう。

動労千葉は、十月二〇日以降、波状的な非協力・順法闘争に決起する。国労組合員の大合流をかちとろう。

国鉄法案十一月成立を阻止しよう

「法案成立が十二月にもなれば、不眠不休の作業をしても来年四月一日の民営化移行は無理。そうなれば国労左派を中心に反改革派が巻返すことになる」・・・

（自民党国鉄改革推進本部長代理　談）

清算事業団、三島基金、貨物会社、用地売却の不透明性、メドのつかない雇用確保、など中曽根・杉浦には何ひとつ成算がなく、分割・民営化の矛盾は深まるばかりだ。だから暴力的な攻撃に訴えるしかないのだ。

中曽根・杉浦は、国鉄労働者の実力決起を死ぬほど恐れている。

反撃は開始された・・・

「国労解体」の陰謀を打ち砕く！

十月九・十日、修善寺で開かれた国労臨時全国大会は、山崎執行部の「労使共同宣言」締結方針を粉砕し、六本木委員長を先頭とした新執行体制を確立した。

分割・民営化反対の旗をおろし、ストを放棄すれば「雇用が守れ、脱退がやむ」のか、断じて否である。「労使共同宣言」方針に対し、組合員の断固たる回答がつきつけられた。

当局のカサにかかった攻撃に耐え、怒り、必死の決起がついにさまざまな反動にうちかち、情勢を動かしたのだ。

「国労の路線転換に期待」（九日談話）した中曽根の思惑は見事にふっとんだ。

臨大の勝利は中曽根の敗北―分割・民営化の破産だ。

「61・11ダイ改」が強行されれば職場は地獄だ

中曽根・杉浦は「61・11ダイ改」により、新体制への移行を事実上完了せんとし、労働組合の抵抗・反撃をおさえこみ強行実施しようとしている。

「61・11」は四万四千人の大要員合理化により八万二千人の「余剰人員」が生まれ、そして五万五千が「人材活用センター」にぶちこまれるのだ。

加えて当局は「列車大増発、スピードアップ、新会社強化にむけたダイヤ改正」といい、十一万キロに及ぶ旅客列車設定キロを増やす一方で二万五千人もの要員削減、さらには、スピードアップ―停車時分の短縮など運転保安無視＝大事故必至の「ダイ改」である。

「61・11ダイ改」が強行されれば職場は地獄だ。

「61・11ダイ改」粉砕の闘いに全力決起せよ

今、問われていることは「61・11ダイ改」攻撃に対し実力反撃にたつことだ。

十万人の首を切るための「61・11ダイ改」に一戦も交えず降伏するのか。

断じて否だ！

実力で反撃する以外に一切の展望はありえない。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！

昭和61年（1986年）10月15日（水曜日）　信濃毎日新聞

国鉄改革労組 長野協議会 初の決起集会 流会

反対派が力で阻止 300人スクラム 会場に入れず

マル生集会を粉砕する

長野鉄道管理局管内の国鉄改革推進派六労組でつくる「国鉄改革労組長野協議会」（議長・内山今朝男動労長野地本委員長、約千六百人）が、十四日午後六時から長野市の県勤労者福祉センターで計画していた初の決起集会は、国鉄分割・民営化への反対姿勢を崩さない国労長野地本、応援の県評系労組員約三百人の激しい抗議と妨害の中で、大半の参加者が会場に入れず流会、集会を力で阻止する異常な事態となった。国労臨時全国大会で、協議路線の執行部方針案が否決されて以来、国鉄改革反対派の動いは強まっており、推進派との労・労対立は一層激化する情勢となった。

この日の集会は「改革の鉄道産業の興隆を目指す県中央集会」と銘打って、国鉄改革推進派の労組が、家族を含め約六百人の動員を予定した。藤田敏長鉄局長の一時間の講演のあと、「国労臨時大会の全過程は、組合員不在の裏舞台によって進められ、国労組織そのものが完全に崩壊したことを意味する」との決議案を採択する予定だった。

しかし、改革推進派の労組が十三日に、集会を知らせるチラシ二万枚を配布したため、国労長野地本、県評系の国労反対派がそれぞれ百五十人ほどを動員。「当局と一体の国労ぶしはやめろ」などの怒号を集会参加者に浴びせ、スクラムで会場に入るのを阻止した。このため、長野中央署と県警警備部は八十人の警察官を動員、投光器数台を用意した。

16時47分　県評の車で集会反対派の人が会場前へ。
16時59分　改革労協組合員が会場へ入ろうとして、こぜり合い。
17時30分　「集会参加を取りやめようではないか」。県評の車が集会参加者にスピーカーで呼びかけ。入り口付近は国労組合員も含め約三百人に。
17時42分　「改革労協粉砕」「動労は国労つぶしをやめろ」のシュプレヒコール。会場へ入ろうとする改革労協が、県評の車で集会反対派の人が会場前へ。
16時59分　改革労協組合員が会場へ入ろうとして、こぜり合い。
17時30分　「集会参加を取りやめようではないか」。県評の車が集会参加者にスピーカーで呼びかけ。入り口付近は国労組合員も含め約三百人に。
17時42分　「改革労協粉砕」「動労は国労つぶしをやめろ」のシュプレヒコール。会場へ入ろうとする改革労協が、

藤田長鉄局長が裏口から会場内へ。応接室で待機。
同　長野中央署、防警機動隊の約六十人が到着。道路反対側で待機。
18時　閉会予定時刻。会場内は約四十人だけ。

ドキュメント

18時10分　長野中央署が集会反対グループに「県公安条例に違反する無届け集会になる。ただちに解散せよ」とスピーカーで警告。
18時15分　警察官三十人が入り口手前十数メートルまで前進。
同　改革労協の六組合委員長が協議。「六時半までに解決しない場合は集会中止」の方針。
18時30分　改革労協、県評幹部が話し合い。「集会を中止する」（改労協）「解散する」（県評）で合意。
18時35分　県評の松田事務局長がスピーカーで「解散」を指示。
18時45分　会場内で改革労協の各労組委員長が「こういう状態になってしまい残念」と呼びかけ。
18時15分　警察官三十人が入り口手前十数メートルまで前進。
同　改革労協の六組合委員長が協議。「六時半までに解決しない場合は集会中止」の方針。
18時30分　改革労協、県評幹部が話し合い。「集会を中止する」（改労協）「解散する」（県評）で合意。
18時35分　県評の松田事務局長がスピーカーで「解散」を指示。
18時45分　会場内で改革労協の各労組委員長が「こういう状態になってしまい残念」と呼びかけ。

会場前でにらみ合う集会参加者と反対派

集会宣言

本日我々は、国鉄法案粉砕、分割・民営化絶対反対の国会包囲デモに起ち上った。

国鉄決戦は、重大な決戦情勢に突入した。中曽根内閣は、九月二五日「国鉄改革特別委員会」を設置し、なりふりかまわず国鉄法案を強行成立させようとしている。

全国の国鉄職場では、公然たる不当労働行為が吹き荒れ「人材活用センター」と称する強制収容所には一万七千余名の役員・活動家をたたきこみ「国鉄分割・民営化は既定のもの」とする攻撃が激化している。

だが、いかなる攻撃も国鉄労働者から階級的魂を奪い去ることはできない。一戦も交えることなく九万四千人の首切りと国鉄労働運動の解体を許すことなど絶対にない。

十月十日、国労第五十回臨時全国大会は、国労本部内に巣くう「労使共同宣言」派の「全面降伏」方針を百一対百八十三の圧倒的大差で否決し、山崎ー秋山執行体制を打倒した。「闘わねば死、勝って勝つ以外に生きる道はない」と実力反撃ののろしをあげた動労千葉第一波、第二波のストライキ決起は、ついに全国鉄労働者の奔流となって実力反撃の突破口を切りひらいたのだ。

この国労臨時大会の歴史的勝利は情勢を一変させた。今や壮大な反撃にむかって国鉄労働者の進撃が始まった。すでに、国労青年部のハンストは全国で燃えあがり「ハンストからデモへ」、「デモからストライキへ」の声は日増しに高まっている。人活センターからの総反撃も始まった。

いざ総反撃へ！　中曽根・杉浦の手先となり「国労解体」をさけぶ動労松崎・革マル真国労を解体し、全国の職場・地域でストライキ体制を確立しよう。

理不尽極まりない「国鉄改革法案」粉砕、分割・民営化阻止にむかって更なる怒りで国会を包囲しよう。

十月二十日からの動労千葉強力順法闘争を貫徹し、これと固く連帯した全国鉄労働者の決起をかちとろう。

右宣言する。

一九八六年十月十二日

国鉄法案粉砕、分割・民営化絶対反対
「10・12」労働者総決起集会参加者一同

「61・11ダイヤ改正」阻止
10月末闘争について

〈動労千葉〉

(1) 闘いの目標

1、「62・4分割・民営化」阻止、国鉄法案阻止

2、「61・11ダイヤ改正」－44000人首切り合理化粉砕
運転保安確立

3、「人材活用センター」「広域配転」攻撃粉砕

4、当局の団交拒否・形骸化弾劾

(2) 具体的戦術

1、10月20日～22日の間、始発（始業時）から24：00まで、全組合員を対象とする順法闘争を実施する。ただし、乗務員については各日とも12：00までとする。

2、10月26日以降いつでも闘いに突入できる闘争体制を確立する

3、10月30日国会闘争を実施する

〈毎日〉

20日から戦術強化
千葉動労

国鉄の分割・民営化に反対して一日から千葉県内全線で順法闘争を続けている千葉動労（中野洋委員長、組合員九百六十人）は二十日から二十二日までの三日間、戦術を強化するとと十七日発表した。

これまでの順法闘争は、危険踏切での徐行運転や、ラッシュ時の遅れの回復運転をしないなどの「非協力安全確認行動」だったが、二十日からはラッシュ時のドアの開閉などで、徹底させるという。

〈読売〉

千葉動労「順法」強化

国鉄の分割・民営化と十一月のダイヤ改正に反対し、一日から順法闘争を続けている千葉動労（中野洋委員長、九百六十人）は、週明けの二十日から三日間、安全確認に念を入れるなど戦術を強化する。対象は総武快速、総武、外房、内房線など十一線区で、千葉動労では十～五分程度の遅れが出るとしている。

〈千葉日報〉

20日から順法闘争を強化へ
千葉動労が表明

千葉動労（組合員九百六十人）の中野洋委員長は十七日、今月一日から続けている11・1ダイヤ改正反対に伴う順法闘争の戦術を二十日から、さらに強化することを明らかにした。

今回の闘争は二十日から二十二日までの三日間、始発から午前零時まで、全組合員による順法闘争を実施するが、乗務員は午後零時までで、夕方のラッシュ時の混乱はなさそう。

同委員長は「五～十分程度の影響が出るかもしれない。また、今月二十六日以降はいつでも闘いに突入できる体制を確立する」としており、二十六日以降、国会で審議されている国鉄法案の動き次第で、ストなどの可能性も示唆した。